



急性期から
すべての

在宅まで

時期をとともに

学びましょう！



リハビリテーションセンター教育プログラム

新人ローテーションってどんなもの？

オンリーワンの生涯学習記録「轍」
わだち ……2ページ

自己の成長が分かる「キャリアラダー」

1年目の新人研修の予定は？ ……3ページ

リハビリテーションセンター各施設は？ ……4ページ

学会発表/地域活動/先輩の出身校は？ ……5ページ

先輩の体験談！ ……6ページ

医療法人マックスシール リハビリテーションセンター

理念

リハビリテーションを通じて地域の「**安心感**」の力になることにある

リハビリテーションセンター教育プログラム

教

育を通じて教える人も教えられる人も成長する（共育）

という考えのもと、生涯教育支援を行なっています。

我々が目指すセラピスト像である

地域

で包括的にリハビリテーションを提供できる

Generalist の育成を目的としています。
ジェネラリスト

リハビリテーションセンター キャリアデザインモデル

1か月：組織の中での自身の役割を知り、実践への準備ができる

3か月：管理下で組織の中での役割を実践できる

6か月：指導下で組織での役割を実践できる

5年目：指導的な役割を実践できる

8～10年目：組織全体を見ることができる

（業務の監督、上長の補佐）

新人教育期間

1人前

中堅

ベテラン

3年目：自立して組織での役割を実践できる

5年目：指導的な役割を実践できる

8～10年目：組織全体を見ることができる（業務の監督、上長の補佐）

10年目～：管理職業業務（課内業務の管理）

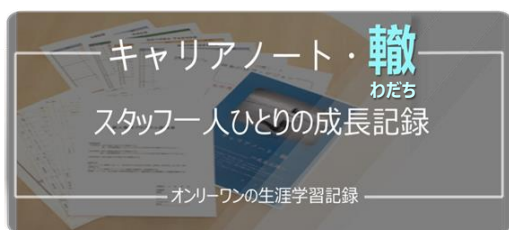
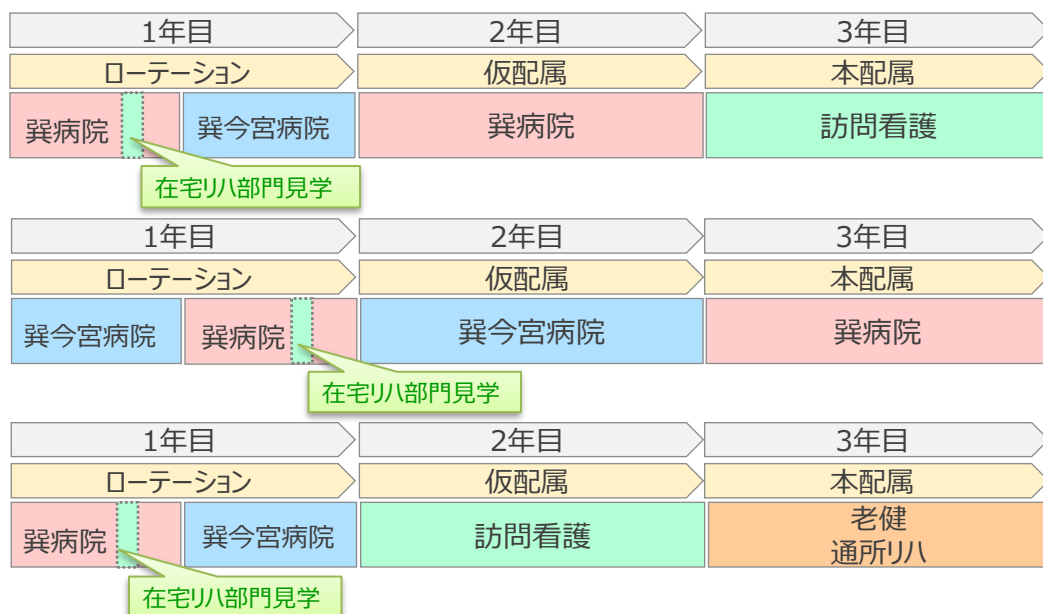
新人ローテーション研修

〔目的〕 リハビリテーションセンターのスタッフ全員が、
地域の方々に安心・安定した途切れのない医療・介護を提供できる力を身につける。

〔行動目標〕

- ✓ 病院・施設・在宅全てを経験し、視野を広げる。
- ✓ 対象者様の予後を長期的に予測できるようになる。
- ✓ セラピストとして互いの専門性を尊重でき、その中で自身の専門性を見出せるようになる。
- ✓ 「連携」「繋がり」の大切さを理解する。

【パターン例】



自身の経験を記録し、振り返ることで、
自分の適性や課題、目標がみえてくる！

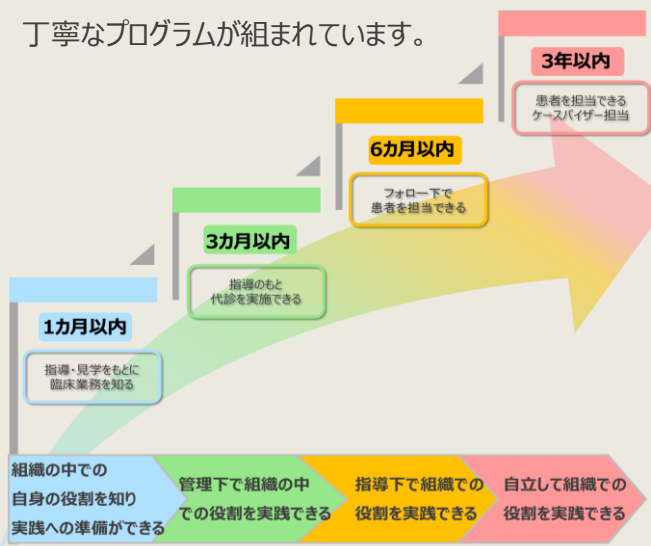
〈項目〉

- 目標シート
- 施設内・外研修会記録
- 学会発表・参加記録
- 振り返りシート
- キャリアラダーなど

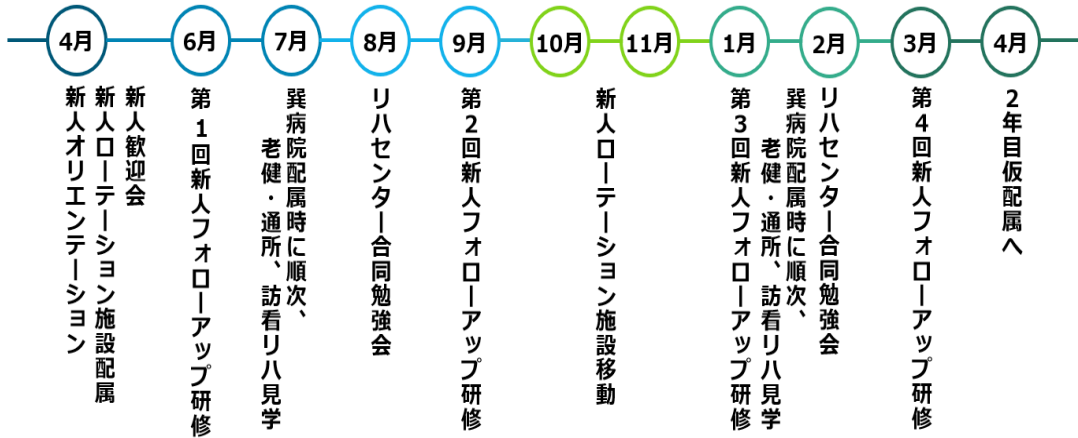


キャリアラダー

入職1ヶ月目から、それぞれの時期に応じたラダーに従って、
丁寧なプログラムが組まれています。



1年目の研修及びその他日程



現場に入る前の不安が減った！

新人 オリエンテーション

入職後、ローテーション施設へ配属される前に、オリエンテーションがあります。
講義形式にて、現場に入る前に知っておいて欲しいことを中心に行います。

内容

リハセンターの理念・組織体制
教育、連携委員会の取り組み
社会保障制度

ジェネラリスト
接遇
自己紹介



同期の輪を大切に！

新人 フォローアップ研修

継続して知識・技術のフォローを行ない、一人の経験・課題を皆で共有することを目的に行なっています。

1年目 年間4回(7月、10月、1月、3月)
振り返り・情報交換会、症例検討会、KYT研修
介助・福祉用具の使い方、臨床推論

2年目 年間2回(9月、3月)
介護予防教室の補助・学会発表について
事例発表会(プチ学会)

3年目 1年目研修のアシスタント

医療法人マックスール
リハビリテーションセンター
新人教育プログラム

事例発表会

～2年目によるプチ学会～

日時 2018年3月10日(土)15:30-17:00
異病院介護老人保健施設5階

プログラム

- ①15:30-15:40 基本 例(講義)
本施設における事例発表の意義と目的、事例発表の準備と実施方法について
- ②15:40-15:50 準備 質疑(討論)
- ③15:50-16:00 例 症例(発表)
- ④16:00-16:10 質疑 討論(発表)
- ⑤16:10-16:20 準備 質疑(討論)
- ⑥16:20-16:30 例 症例(発表)
- ⑦16:30-16:40 質疑 討論(発表)
- ⑧16:40-16:50 準備 質疑(討論)
- ⑨16:50-17:00 例 症例(発表)

医療法人マックスール リハビリテーションセンター
異病院、異学舎併設、異病院介護老人保健施設、異病院訪問看護ステーション

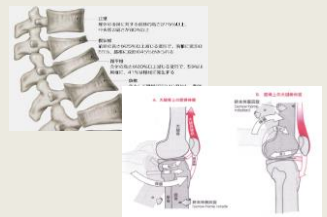


代表的疾患を先輩が講義！

新人講座

代表的な疾患の解剖・手術・アプローチについて、
座学、実技などを入職後 4月～7月に開催します。

例) 大腿骨頸部・転子部骨折、圧迫骨折、
脳血管疾患、膝関節、足関節、肩関節など



リハセンター合同勉強会

年2回、リハセンタースタッフ全員で集まり、
勉強会を行なっています。



各施設リハビリ勉強会

各施設ともそれぞれ定期的に勉強会を行なっています。



巽病院リハビリテーション科

入院リハビリでは受傷早期からリハビリ介入し、早期から在宅生活へ向けた関わりを行っています。

介護保険を利用した巽病院退院後の患者様の訪問リハビリや短時間通所リハビリも行っています。

外来リハビリではスポーツ障害から手の外科、退行変性疾患まで幅広いリハビリを提供しています。



巽今宮病院 リハビリテーション科

回復期リハ病棟、療養病棟・一般病棟(透析病棟含む)を有し、幅広い疾患と病期の患者様に関わっています。

全ての入院患者様の在宅復帰を目指して、より良い退院後の生活を提供する為、院内チーム連携に加え、同法人の訪看・老健とも密に連携を行なっています。



介護老人保健施設 通所リハビリテーション

要介護状態の利用者の心身機能の維持回復を図り、在宅復帰・在宅療養を支援するための地域拠点です。
多職種が連携し、個別リハ以外の時間の過ごし方、自宅環境等にもアプローチして、機能維持・改善の役割を担う施設です。



巽病院訪問 看護ステーション

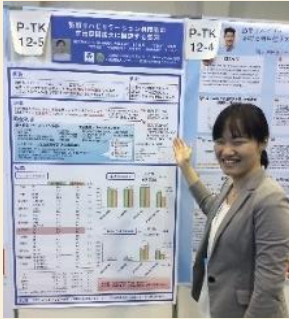
住み慣れた自宅で過ごせる日々を喜び合い、地域に安心感と笑顔が広がるよう専門的な視点で一人一人の生活に寄り添うリハビリを提供します。
多職種の連携を密に行ない、小児から高齢者、ターミナルケアまで、幅広く関わっています。





学会発表

抄録・発表スライドなど
一緒に倫理的・学術的に
検討して、発表を支援します



リハセンター地域活動



ヘルスプロモーション
(巽病院)



箕面シニア塾
(巽今宮病院)



介護予防教室
(介護老人保健施設・訪問看護ステーション)



秋祭り健康チェック
(巽今宮病院)



各施設セラピスト取得のリハ関連資格・認定など

地域理学療法認定理学療法士
認定訪問療法士
地域包括ケア推進リーダー
介護予防推進リーダー
口腔ケア学会認定資格
リウマチ財団登録作業療法士
フットケアトレーナー

脳卒中認定理学療法士
博士 (保健学)
介護支援専門員 (ケアマネジャー)
3学会合同呼吸療法認定士
おむつフITTER-3級
メンタル心理カウンセラー
BLS (Basic Life Support)

呼吸認定理学療法士
理学療法士協会指定管理者(上級・初級)
回復期セラピストマネージャー
福祉住環境コーディネーター1・2・3級
認知症ケア専門士
介護福祉士
運動器機能評価実施者



先輩の出身校

臨床実習受け入れ校

藍野大学(医療福祉専門学校)	甲南女子大学
大阪医専	神戸医療福祉専門学校 三田校
大阪医療技術学園専門学校	神戸学院大学
大阪医療福祉専門学校	神戸総合医療専門学校
大阪電気通信大学	四條畷学園大学
大阪府立大学	鈴鹿医療科学大学
大阪南視覚支援学校	専門学校川崎リハビリテーション学院
大阪物療専門学校	宝塚医療大学
大阪保健医療大学	はくほう会医療専門学校
大阪リハビリテーション専門学校	白鳳女子短期大学
大阪行岡医療大学(行岡リハ専門学校)	福岡国際医療福祉学院
関西医科専門学校	佛教大学
関西医療大学	箕面学園福祉保育専門学校
関西学研医療福祉学院	森ノ宮医療大学
京都橘大学	山形県立保健医療大学
近畿中央胸部疾患センター付属リハ学院	大和大学
熊本総合医療リハビリテーション学院	履正社医療スポーツ専門学校
健康科学大学	

藍野大学
大阪医療福祉専門学校
大阪人間科学大学
大阪府立大学
大阪保健医療大学
大阪リハビリテーション専門学校
大阪行岡医療大学
関西医科専門学校
京都光華女子大学
京都橘大学
神戸学院大学
宝塚医療大学
奈良学園大学
佛教大学
箕面学園福祉保育専門学校
森ノ宮医療大学
大和大学

先輩スタッフの体験談



PT 理学療法士 香美 亜衣さん 2019年入職
履正社医療スポーツ専門学校 卒業

入職3年目となり、現在、回復期で勤務しています。ローテーション研修では、急性期では術後早期で日々変化する患者様の状態を正確に把握し、迅速に対応する事の重要性を学びました。回復期では、機能面に対するアプローチだけでなく、退院後の生活を想定し環境面へのアプローチや福祉用具の提案など幅広い視野でのアプローチの重要性を学びました。また、多職種と関わる機会が多く、多職種連携や家族様との情報共有の必要性も学ぶことができました。介護部門研修では、自宅退院後の生活状況を踏まえたアプローチや、家族様やケアマネージャーと情報共有していく重要性を学ぶことができました。

研修で急性期から在宅までを経験し、多角的なアプローチについて学ぶことができたことは、PTとして基盤となり、非常に強みになると実感しています。



OT 作業療法士 北畠 聖士さん 2018年入職
神戸学院大学 卒業

現在、入職4年目となり、介護部門(老健・訪看)で勤務しています。

ローテーション研修にて初めの6ヶ月は、回復期で社会人としての基礎とOTとしての専門的な知識を学び、患者様のADLを上げるためには、在宅生活につなぐためにはどうすれば良いかなど、日々、先輩にアドバイスをもらいながら経験しました。後半の6ヶ月は急性期にて術後早期の入院患者様と同時に、外来にて上肢を中心に手指や手関節の外傷患者様も経験できました。

介護部門研修では、これまで想像でしかなかった在宅生活の実際を見ることができ、生活の継続のためには家族様の協力と同時に家族様のフォローが必要であり、その重要性を学びました。

研修で急性期から在宅までを経験することができたことは、貴重な経験であり、現在の自分の強みになっていると感じています。



ST 言語聴覚士 朝田 真由美さん 2019年入職
大阪医専 卒業

私は急性期から在宅まで多岐に渡る経験ができ、切れ目のない医療、介護を提供できるところで働きたいと思い、入職しました。1年目は回復期に勤務しながら、週1~2回半日は研修として急性期の異病院へ行っていました。回復期では、一人一人とじっくり向き合った介入を行い、患者様のQOL向上や退院後の生活を想定したりハビリの必要性を学びました。急性期では、日々変化する患者様の症状を的確に捉え、臨機応変で迅速な対応が必要であることを教わりました。

現在、入職3年目で回復期に勤務していますが、今後介護部門も経験する予定です。入職初期から領域を絞らず多様な経験をすることで、幅広い知識や視点が得られ、それが今後STとしての強みになるということに早い段階で気付く事ができました。それをバックアップしてくれる充実した教育プログラムは、他にはないものだと感じています。

JCI取得



医療法人マックスール巽病院は

‘関西初’のJCI（国際医療評価機関）認証取得病院です。

医療現場での「患者の安全」「医療の質」などを中心とした、“世界で最も厳しい”と言われている国際的な医療施設評価機構「JCI = Joint Commission International」の審査を受け、平成29年1月23日アメリカ本部から世界基準を満たしているとされる認定書が授与されました。

